

小中一貫教育は「中1ギャップ」解消に向けた取り組みを行いやすくする枠組み

生徒指導上の問題

- ・不登校児童生徒数
- ・いじめの認知件数
- ・暴力行為の加害者数

学習指導面の課題

- ・勉強する内容が急に難しくなった
- ・量が増えて戸惑った
- ・授業のペースが速くてついていけなかった
- ・小学校時代からの学習のつまずきの蓄積

小中一貫教育

「非認知的能力」や「言語能力の育成」
「乗り入れ授業」、小学校段階・高学年の教科担任制
小中間での児童生徒の情報共有
小・中間、異学年間の交流 等々

「施設一体型」、「施設分離型」
いずれの形態であっても同様に取り組み可能

「中1ギャップ」の要因

学習指導面の課題

- ・勉強する内容が急に難しくなった
- ・量が増えて戸惑った
- ・授業のペースが速くてついていけなかった
- ・小学校時代からの学習のつまずきの蓄積

子供たちの人間関係や
生活の変化

+

家庭が抱える様々な事情

小・中学校段階の主な差異

指導体制、指導方法、評価方法、家庭学習、生徒指導の手法、部活動の有無

同時期に生
じる

生徒指導上の問題

- ・不登校児童生徒数
- ・いじめの認知件数
- ・暴力行為の加害者数

小学校6年生から中学校
1年生になったときに大
幅に増える